

長寿科学総合研究

| 厚 | 生 | 労 | 働 | 科 | 学 | 研 | 究 | 費 | 補 | 助 | 金 | 事 | 業 |



公益財団法人 長寿科学振興財団

長寿科学総合研究とは

超高齢社会を迎えた今、社会全体で高齢者を支え、国民が安心して生涯をすごすことができる社会を実現することが喫緊の課題です。高齢者の介護予防や健康保持等に向けた取組を一層推進するため、高齢者に特徴的な疾病・病態に着目し、それらの予防、早期診断及び治療技術等の確立に向けた研究を推進します。

(1) 老年病等長寿科学技術分野

(2) 介護予防・高齢者保健福祉分野

(3) 運動器疾患総合分野

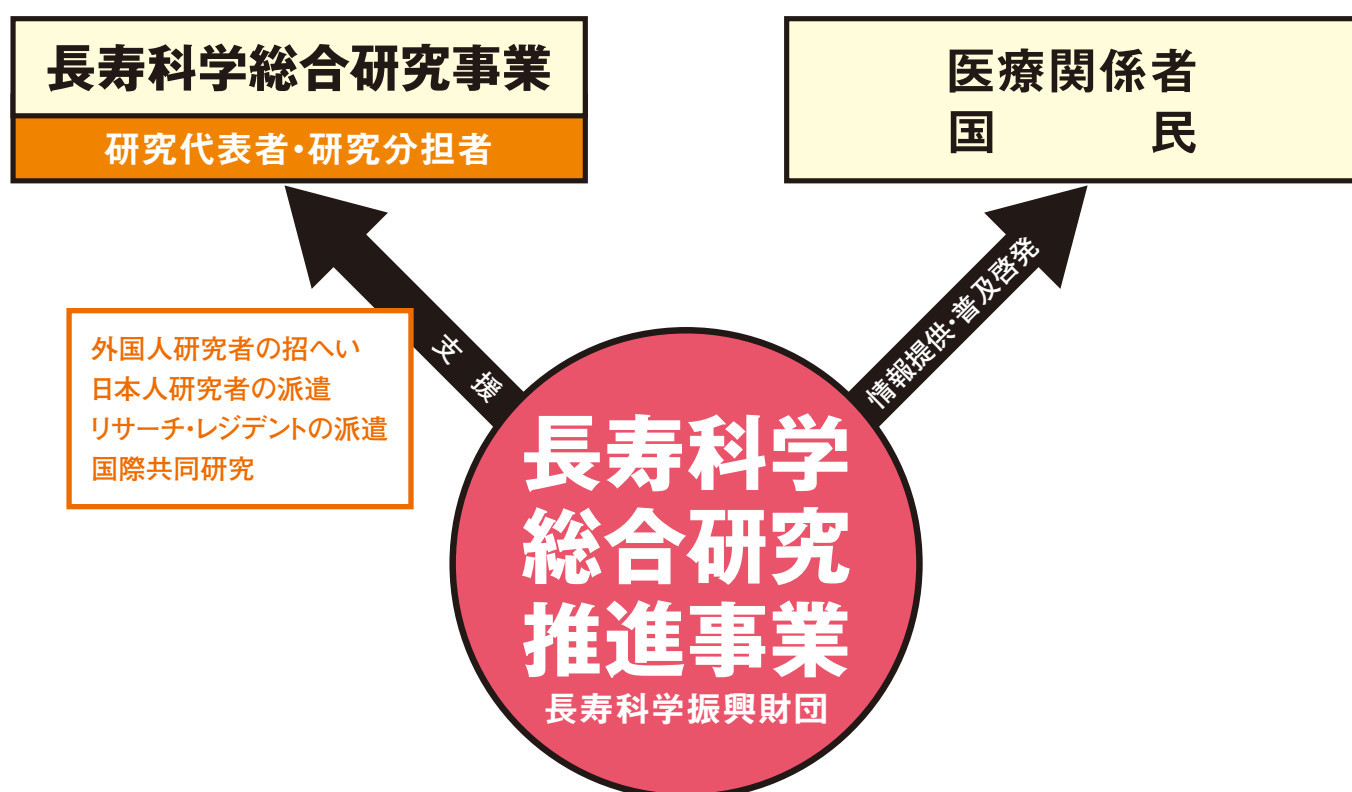
なお、本財団はこの長寿科学総合研究に関する推進事業を担当し、研究の支援をしています。

長寿科学総合研究と推進体制

厚生労働科学研究推進事業費による公募について

長寿科学振興財団では、厚生労働科学研究費(長寿科学総合研究)で研究課題を公募し、応募採択された研究者を対象に次の事業を行なっています。この公募の案内は、関係する研究者に通知するとともに財団のホームページ(<http://www.tyojyu.or.jp>)にも掲載しています。

- 外国人研究者招へい事業
- 外国への日本人研究者派遣事業
- 若手研究者育成活用事業(リサーチ・レジデント)
- 国際共同研究事業
- 研究成果等普及啓発事業



厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

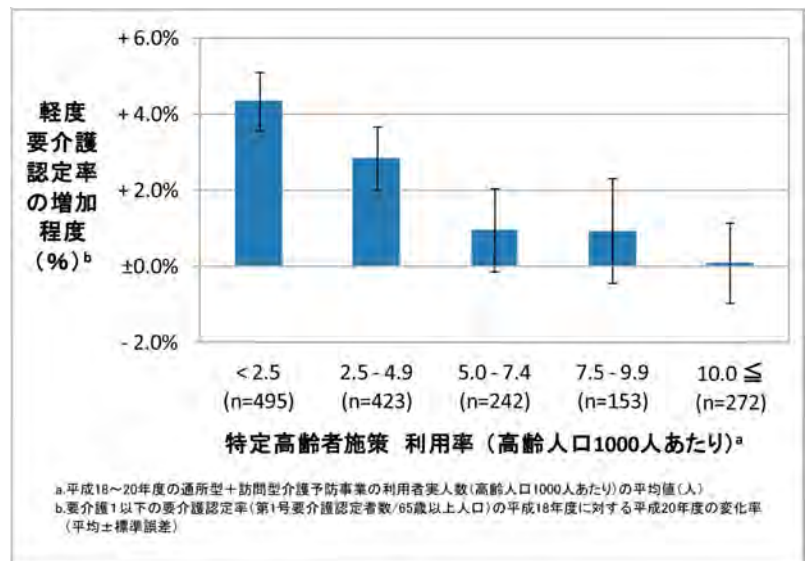
介護予防サービスの効果評価に関する研究

【目的】特定高齢者施策の利用率が高い保険者（市町村など）では、要介護認定率の増加程度が低いかどうかを検討

【解析対象】全国1,585保険者

【方法】

- 平成18～20年度での特定高齢者施策の利用率（高齢人口1,000人あたりの利用者実人数）により保険者を5群に分類（2.5人未満、2.5-4.9人、5.0-7.4人、7.5-9.9人、10.0人以上）
- 平成18年度に対する平成20年度の要介護認定率の増加程度（%）を求め、共分散分析によって平均値を比較
調整項目は、平成18年度の特性（高齢者数、男性の割合、要介護認定率）、高齢者数の増加程度（平成20年度対平成18年度）



【結果】特定高齢者施策の利用率が高い保険者ほど、軽度要介護認定率（要介護1以下）の増加程度が有意に低かった

特定高齢者施策による軽度要介護認定率の増加抑制の可能性が示唆された

辻 一郎 | 東北大学大学院医学系研究科 教授

認知症・関節症・骨折の疫学エビデンスの解明と要介護高齢者の一次・二次予防のための効率的評価システムの開発

人口の高齢化により、支援や介護を要する高齢者が急激に増加傾向を示しており、要介護の原因疾患の2～4位を認知症、関節症、骨折が占め、合計35%以上に達しています

効率的評価システムを確立すれば自立を保てるはずの高齢者が、要介護状態に陥っています

認知症・関節症・骨折を的確に診断、要介護高齢者の一次・二次予防のために効率的評価システムを開発

高齢者運動器住民コホートの解析



認知症・関節症・骨折など生活機能低下をきたす有病率・危険因子を解明

最新の画像診断技術で関節症・骨折の診断基準を設定



全自動のXP画像解析:膝システムは先進医療申請中です

要支援・要介護者の改善・重症化の予防

介護家族の負担が減少

労働力の確保

支援や介護の原因となる疾患の克服

健康寿命の延長

国民の健康の向上

医療福祉の向上

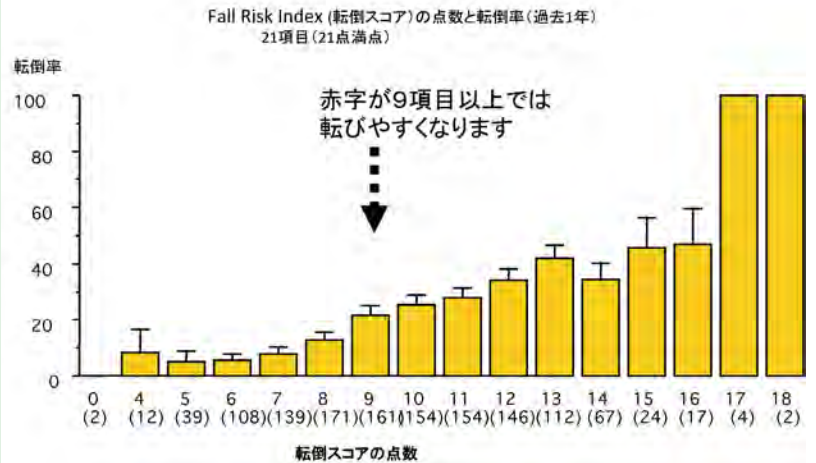
介護・医療費用の削減

岡 敬之 | 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター 特任助教

厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

運動器の不安定性に関与する姿勢と中枢制御機能に着目した転倒予防ガイドライン策定研究

質問項目	回答
過去一年の転んだことがありますか はい の場合転倒回数(回/年)	(はい、いいえ)
1) つまずくことがありますか	(はい、いいえ)
2) 手摺につかまらず階段の昇り降りを出来ますか	(はい、いいえ)
3) 歩く速度が遅くなってきましたか	(はい、いいえ)
4) 横断歩道を青のうちにわたりきれますか	(はい、いいえ)
5) 1キロメートルくらい続けてあるけますか	(はい、いいえ)
6) 片足で5秒くらい立っていられますか	(はい、いいえ)
7) 杖をつかっていますか	(はい、いいえ)
8) タオルを固く絞れますか	(はい、いいえ)
9) めまい、ふらつきがありますか	(はい、いいえ)
10) 背中が丸くなってきましたか	(はい、いいえ)
11) 膝が痛みますか	(はい、いいえ)
12) 目にみにくいですか	(はい、いいえ)
13) 耳が聞こえにくいですか	(はい、いいえ)
14) 物忘れが気になりますか	(はい、いいえ)
15) 転ばないかと不安になりますか	(はい、いいえ)
16) 毎日お薬を5種類以上飲んでますか	(はい、いいえ)
17) 家の中で歩くとき暗く感じますか	(はい、いいえ)
18) 廊下、居間、玄関によけて通る物が置いてある	(はい、いいえ)
19) 家の中に段差がありますか	(はい、いいえ)
20) 階段を使わなくてはなりませんか	(はい、いいえ)
21) 生活上家の近くの急な坂道を歩きますか	(はい、いいえ)



転倒予防手帳に
各ケアプランが
記載されている



鳥羽 研二 | 国立長寿医療研究センター 病院長

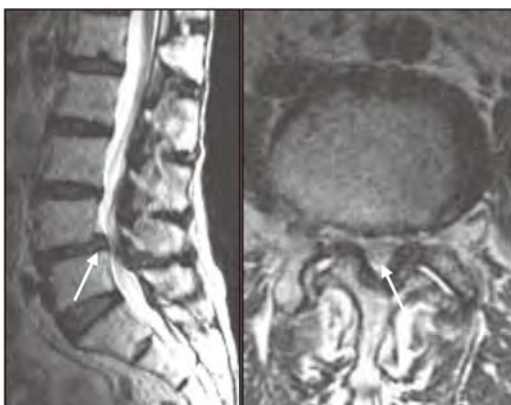
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」

腰部脊柱管狭窄症とは

腰部脊柱管狭窄症とは、腰椎の中の神経が通る管(脊柱管)がさまざまな原因で狭くなり、脊髄や馬尾(神経根)や脊髄神経が圧迫されて特徴的な症状を出す症候群のことです(図)。その症状には、殿部から下肢の痛みやしびれが立ったり、歩いたりすることにより強くなり、前かがみや座ることにより軽くなるという特徴があります。また、腰椎のMRIなどで症状を説明できる部位の脊柱管が狭くなっているのが確認されます。上のような症状がでたら、まず近くの整形外科を受診して下さい。

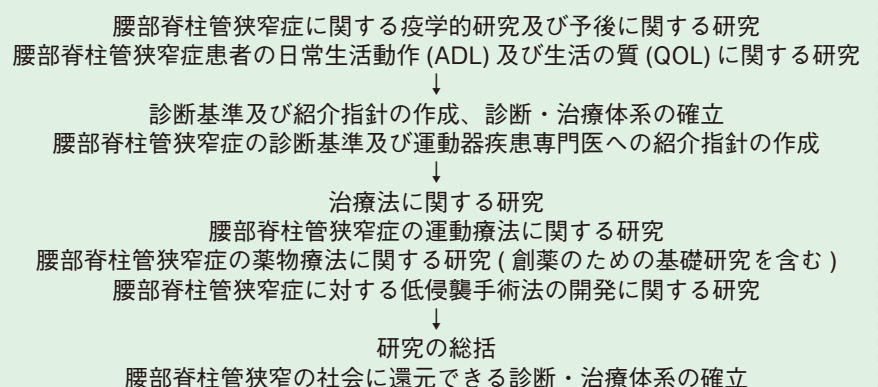
研究の成果

この研究により、患者さんの数などに関する疫学、この病気が患者さんの日常生活や生活の質への影響、有用な診断法、専門医への紹介指針、新しい治療法に関する基礎的なデータが得られました(研究の流れ図)。人口の高齢化が進むわが国において、この病気の重要性はますます大きくなると考えられます。



第4 腰椎変性すべり症に伴う腰部脊柱管狭窄症のMRI。左：矢状面、右：横断面 矢印の部位にて脊柱管の狭窄を認める。

研究の流れ図



高橋 和久 | 千葉大学大学院医学研究院 教授

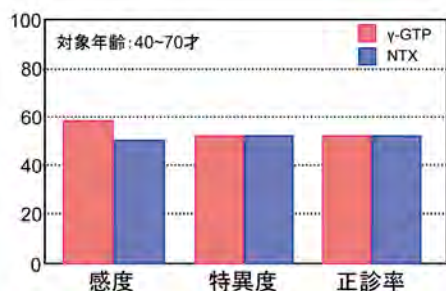
骨粗鬆症の尿スクリーニング検査の費用対効果に関する研究

骨粗鬆症検診の受検率は依然低迷

超高齢社会となり、骨粗鬆症による骨折数の増加が危惧されているが、地域住民を対象とした骨粗鬆症検診の受検率は今もって低迷しており、何らかの対策が必要になっている。低受検率の主要因は検診コストの問題のようだ。それなら廉価な検診法を開発し、骨粗鬆症検診の普及を図ることも一策である。

新しい検診用マーカー『尿γ-GTP』

骨が脆くなると、尿中にγ-GTPがたくさん出てくることを見いだしました。



既存の検査マーカーである尿NTXと比較しても、検診成績は、同等か、それ以上でした。

一次検診法	受検者数		発見された有病者数* (骨量減少または骨粗鬆症)	費用(千円)			有病者一人を発見する費用
	一次	二次		一次	二次**	合計	
とう骨BMD	522	17	15 (7)	1,096	271	1,367	91.1
踵骨BMD	510	17	11 (2)	1,071	271	1,342	122.0
NTX	732	50	36 (19)	923	798	1,721	47.8
γ-GTP	732	52	38 (20)	145	829	944	24.8

* ()内の数字は治療を開始した人数

** 二次検診費用は医療機関での骨粗鬆症の標準的検査と診察にかかる金額を15,950円として計算

検診の費用対効果を既存の検診法と比較してみました。尿γ-GTP検査は非常に廉価(骨密度検査の1/10)であることから、その効果は骨密度法の4倍でした(人数補正後の計算)。

新飯田 俊平 | 国立長寿医療研究センター 室長

災害時高齢者医療の初期対応と救急搬送基準に関するガイドライン作成に関する研究

研究目的

我が国での大規模災害時の被災者の大多数を占める高齢者には、災害の亜急性期(4日以降)から慢性期にかけて疾患が多発し、災害関連死が多いことが知られている。災害時の高齢者に多発する疾病への初期医療対応・救急搬送基準を策定する。

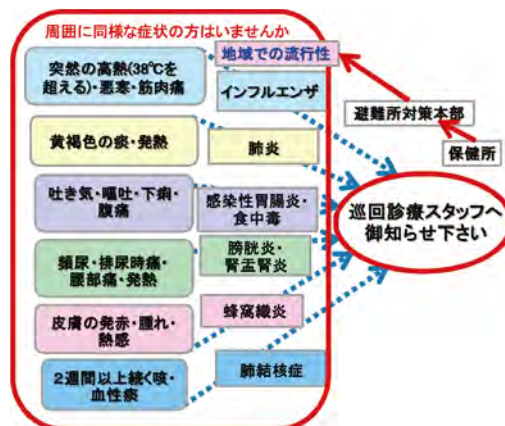
研究成果 日本老年医学会: <http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/>

「高齢者災害時医療ガイドライン」 (全336頁): 医療者・自治体向け

- 災害発生時の経時的に高齢者に起こりうる医療需要予測・評価
- 急性期疾患への初期対応、搬送基準
- 慢性期疾患への対応、搬送基準
- 主要症候と初期対応法
- 自治体の初期対応と福祉避難所設営
- 自治体他の医薬品、医療機材備蓄
- 高齢者家屋の防災処置
- 過去の災害での高齢者医療出動

「一般救護者用・災害時高齢者医療マニュアル」(全25頁): 一般救護者向け

- 避難所での高齢者の重要な疾患の特徴と予防法
 - 虚血性心疾患・高血圧、● 脳卒中、
 - 感染症、● 脱水症、● 栄養障害、
 - 消化器疾患、● 糖尿病、● 喘息、
 - 慢性閉塞性肺疾患、● 腎臓病、
 - 泌尿器科疾患、● ストレス障害、
 - うつ状態、● 認知症、● せん妄、
 - 歯科疾患、● 生活不活発病
- 高齢者急性疾患の症候
 - 意識障害、● ショック症状、● 呼吸困難、
 - 急性復症、● 神経症状、● 胸痛、
 - 高血圧緊急症、● 発熱、● 血尿
- 高齢者で注意を要する症状
 - 嚥下障害、● 下痢、● 便秘



口腔ケア

森本 茂人 | 金沢医科大学医学部 教授

公益財団法人 長寿科学振興財団とは

本財団は、国立長寿医療センターの設置とともに、国の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」の重要な柱として位置付けられ、各界からの幅広いご支援のもとに、我が国の長寿科学研究を側面から支援する財団として、平成元年12月に設立されました。

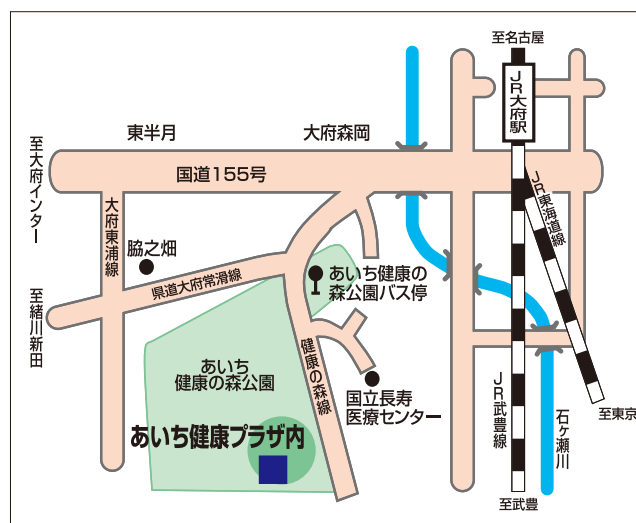
本財団には、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下・皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより、昭和天皇の御遺産から、更に平成13年4月には、香淳皇后の御遺産から御下賜金が賜与されました。

世界一の長寿国である我が国において、長寿科学研究の振興は、極めて重要な事業であることから、厚生労働科学研究の各種推進事業の遂行に努力し、これからも『明るく活力ある長寿社会』の構築に、貢献して参ります。



公益財団法人 長寿科学振興財団

<http://www.tyojyu.or.jp>



公益財団法人 長寿科学振興財団

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1番地1

あいち健康の森 健康科学総合センター4階

TEL.0562-84-5411 FAX.0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp